

雜 錄 Miscellaneous

熱帯アジア、東アフリカ旅行記 (其一)

佐々木 舜 一

Syuniti SASAKI: Journy of the Tropical Asia and the East Africa (I)

マヘガキ

昭和 11 年ノ秋 9 月、私ハ主トシテ東半球ノ主ナル熱帯植民地ノ植物産業ト此原動力タル植物園ト植物研究機關ノ視察ヲ命ゼラレタガ、時日ト旅費ニ制限ガ與ヘラレタノデ、多年ノ宿望デアリ、前回ノ南洋視察旅行ニ洩レタ英領セイロン島ト同印度帝國ト、馬來半島ト蘭領東インドノジャバヲ選定シテ行李早々同月 23 日郵船歐洲航路ノ白山丸ノ基隆寄港ノ便ヲ借リテ香港、シンガポール、ペナン等ニ立寄り、印度洋ヲ渡リ、セイロン島ノコロombo港ニ上陸シテ同島内ヲ旅行シ、更ニ南印度ニ渡リ、南部カラ順次北行シ、更ニ東行シテカルカットニ出タ處、マダガスカル旅行ノ内命ヲ受ケタノデ、航路及ビ日程ノ關係上シンガポールニ引キ返スヲ便利ト考ヘタノデ、ビルマヲ經テシンガポールニ渡リ、更ニ此處ニテ大阪商船南米航路ノ便ヲ借リテ英領東アフリカニ渡リ、附近ヲ一瞥シテモンバサカラ佛領マダガスカルニ渡リ、北部ト東部・中部ヲ視テ翌年ノ 3 月初旬同島ヲ辭シ、4 度ビ印度洋ヲ東航シテレニオン、モリシヤス、ロードリグッツ島等ニ寄港シテ遂ニ蘭領東印度ジャバ島ノ首府バタビヤ港ニ上陸シ、ポイテンゾルグ、バンドン等ヲ視察シテ、シンガポールニ渡リ、香港ヲ經テ 12 年 4 月 12 日臺灣ヘ歸着シタノデアル。此間ビルマ、マレイ半島等ヲ視察シテ總計 7 ヶ月ノ日子ヲ費ヤシ、航程 18,000 哩、船ヲ換フル事 9 回、乗船日數 79 日間、金ヲ換フル事 13 回ト云フ記録ヲ作ツタノデアル。以下順ヲ追ツテ拙イ旅日記ヲ續ケタイト思フノデアル。

一、臺灣カラ香港ヘ

多年臺灣ニ住ンデ居ル關係上、今後モ帝國南進ノ策源地ト云フ建前カラ南ノ方ノ先進國、熱帯植民地ハ機會有ル度毎ニ見テ置カナケレバナラヌノデ、命ノ儘ニ 9 月 23 日多クノ人々ニ見送ラレテ午後 1 時臺北驛ヲ出發シテ 2 時基隆ニ着キ、郵船會社ノ樓上デ白山丸ノ入港ヲ待ツタガ豫定ヨリモ遅レテ 4 時ニ港内遙カノヴィニ投錨シタノデ急ギ税關デ旅具ノ検査ヲ受ケテ、植物検査所ノ好意デ同所ノランチデ船ニ届ケテ貰ツタ。吉井、田中ノ兩君ハ懇々船ニ來テ呉レテ何呉レト世話シテ下サル。

本船ノ側ニ着タ私ノランチノ檢疫ノ終ルヲ待ツテ乗船シタ。本船ハ所謂郵船ノ H 型船デ箱根、榛名、宮崎等ノ姉妹船デ、舊クハアルガ船體ハ太ク、掃除トオ化粧ガ良イノデ却々

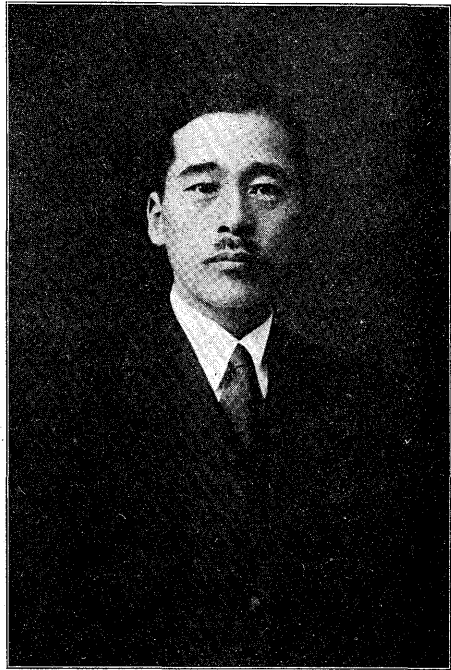
堂々タルモノデ、何シロ長イ間鳴ラシタ
押シモ押サレモセヌ歐洲マイルデ1萬噸
ノ巨船デ、船員が上カラ下迄洋行姿ノキ
チントシタユニフォームヲ着込ンデ居ル
ノデ外見丈ケデモ立派デアル。ソレニ乗
客諸君モ立派ナ風彩バカリノ人々デ自分
ノ貧弱サガツクヅク眼ニ着ク。

サルンデ茶ヲ飲む中ニ見馴レタ人々が
今日此船デ鹿島立チスル石射新任シヤム
公使ノ御見送リニ來テ居ルノデアツタ。

スモークンクルームニ水上警察ノ係官
カラ呼び出サレテ新ラシイパスポートノ
第一ページニ基隆出港ノ官行ガ捺サレタ
ノデ、之デ愈々日本ノ土地ト別レネバナ
ラスト直感シタ。私ノ室ハ左舷ノ14號
室デ少シ狭クハアルガ1人室デ風呂ト便
所ニ近イノデ全クノ仕合セト思ツタ、送
ツテ下サル人々ト自分ノ部屋ニ這入ツテ
荷物ヲ整理シ、惜クハアルガ空ハ曇ツテ
陽モ暮レカ、ツタノデ5時半最後ノ便船
ト云フランテ退船ヲ願ツタ。暮レカ、ル空ニ兩氏ハハンケチヲ振リツ、何時ノ間ニカ見
エナクナツタ。

洵ニオ耻シイ事ダガ歐洲メール等デ旅ヲスルノハ初メテ、爲メ、船中ノ規則ト習慣ヲ一通
リ心得テ居ラナケレバ辱ヲカク、叱ラレナクトモオ小言位ハ頂戴セネバナラスト聞イテ居ル
ノデ、早速部屋部屋ニ掛テアル乗船心得ヲ見タ。却々鹿爪ラシク書き連ネテアル、曰ク無體
裁ナ着物ノ着流シハイケヌ、浴衣ノ儘室外ニ出テハ困ルトカ、服ヲ着テスリッパデハナラヌ
トカ、食堂デハ相當ノ服裝デテーブルニ着テ貰ヒタイトカ、善人、君子バカリノ寄り合ヒノ
規則デアリ却々六ヶ敷シイ事共デ、私等ノ家内ニ於ケル日常生活トハ大分離レテ居ル模様
ダ。キチントシテ洵ニ立派ナ事ダガ、歐米人ニ氣兼ねシテ來タ慣ハシダサウデ今少シ窮屈
ヲ止メテユツクリスル方法ハ無カラウガト思ハレタ。其他食事時刻、賣食料理、酒場規則、
理髮料、讀書室規則、甲板用椅子代、洗濯、醫療、無電、暗室、禮拜式、船内新聞、小兒遊
場、圖書室、喫煙室、端艇操練、船内巡檢等事細カニ記サレテ居ル。

七時銅鑼ガ鳴ツテ初メテ此船デノ食事ダ。食堂ニ案内サレテ行ク、私ノテーブル相手ガ無
イ、唯ノ一人ポツチダ、明日カラ船醫ガ來テ呉レルカラ今晚ハ我慢セヨトノボーイ君ノ注意
デアツタ。食事ハ全部洋食デ盛澤山ダ、山海ノ珍味ダ、先刻迄身分相應ノ貧弱ナ日本食デ育
ツテ來タ私ガ、急ニ此立派ナ御馳走ニ有リツキ盛澤ナ旅行ニ上ル事ハ聊カ心苦シイ感ニ打



第1圖 出發時ニ旅券ニ貼付セル當時ノ著者ノ寫眞

タレナイデモ無イ有難サダ。

荷役ノ關係デ船ノ入港ガ遅レタノデ未ダ出帆シナイ。陽ハ遠ニ暮レテ港ノ明カリ、標識燈ノ燈ガ眞近く明滅シテ旅情ヲ急ニ煽フル、本船ノ横腹ニハ尙ホ多クノ舳舻^{サンパン}ヤランチガクッ着イテ居ル、午後九時ニ漸ヤクアンカーヲ揚ゲル音ガシ出シタ、萬事出帆準備成ル！運轉士ノ吹笛ノ音ト共ニ機關ハ動キ、水ハ兩舷ニ散ツテ東ノ暗ヲ突イテ動キ始メタ、サラバ日本ヨ！臺灣ヨ！暫クノ御別レダ。

基隆燈臺ヲ左舷ニ見テ眞一直線ニ東ニ快走スル、風ハ顔ヲ撫デ、心地ヨキ旅路ニ上ツタノデアル。懷シノ臺灣島ヲ左ニ見ルカ、右ニ見テ進航スルカ、即チ臺灣海峡ヲ南下スルカ、太平洋ヲ通ツテ驚懸鼻ヲ右ニ見テ香港ニ直行スルカガ私ノ疑問デアツタガ、一時間以上モ上甲板デ一人ノ客サヘ居ナイ處ニ佇ンデ居タガ、船ノ廻轉スル氣配モ無イノデタウトウ眠クテ起キテ居レナクナリ、惜シヤ船室ニ入り第一夜ヲ明カス事トナツタ。

9月24日 晴

旭日ハ朝カラキラキラト甲板ヲ照ラシ、船客ハ三々五々甲板ヲ漫步シテ居リ、船ハ支那大陸ノ東岸ニ沿ツテ南下シテ居ルガ終日陸地モ見エズ、唯茫々タル一點ノ遮ガルモノナキ太平洋上ヲ波風モ無ク南航シテ居ルノミダ。私モ漸ク我ニ歸ツテ船内所要ノ品々ヲ鞆カラ取り出ス。夕食後一等後部甲板デ事務部總出動デ香港ニ關スル活動寫眞ガ映寫サレ、明日着ク殷賑香港ノ豫備知識ガ見ラレ甚ダ仕合セデアツタ。其際今日カラオ友達ニナツタ船醫サンガ來テ色々トオ世話下サリ誠ニ嬉シク感ジタ。

9月25日 晴

午前5時機關ノ音ガパタト止ツタノデ、眼ヲ覺セバ香港島ト大陸トノ間ノ海峡ヲ徐々ニ入港シツ、アルノデアル。附近ニハ日本漁船見タ様ナ支那漁船ガ滿帆ニ風ヲ孕ンデ非常ニ澤山蜩蟬シテ居ル、山ハ多數ノ小島ヲ載セテ樹ハ一本モ見ラレナイ裸山デ、草ハ刈ツタ様ニ青々ト繁茂シテ居ル、左ニ九龍、右ニ香港ヲ見ツ、進ム、崑崙タル洋風建築ガ海水ノ美ト相對シテ山又山ニ層々石垣ヲ積ンダ様ニ重ナツテ居ル。海ニハ處狹シト各國ノ汽船ト軍艦デ埋マリ、出船入船ノ往復ガ實ニ頻繁ニ輻輳シテ居リ、香港島ト大陸トヲ繋グ渡船ノ走ル様ガ之等諸景ト相映ジテ繁榮香港ノ有様ヲ縮圖ノ様ニ見セテ居ル。

私等ノ船ハ香港ニ着クト思ヒキヤ、大陸ノ九龍ノ棧橋ニビタリト繋ガレタ。附近ニ繋ガル、外國船、船體ヤ煙突ニ色々ナナ色彩ヲ見セテ私等日本ノ船ノ色ノマツサガ思ヒヤラレタ。棧橋ノ附近ニハクレセント苦力、上屋ガ櫛比シテ如何ニモ煩ハシサウデアル。

船ノ着クヲ待ツテ日本ホテルノポーターガ乗船スル、知人ガ出迎ヘル、私ハ松原ホテルノ淺田老ニ引率サレテ九龍一號ピアーカラ船ヲ下リテ支那人部落ノ海岸通りニ出テ、妙ナ支那人ノ人力車ニ乗セラレテスター汽船ノ渡場ニ出タ。

渡船ハ午前5時20分カラ始マツテ翌日ノ午前ノ1時15分迄5分間乃至10分間置キニ殆ンド間斷ナク兩方カラ交互ニ發航シテ居ルガ、乗客ノ多イ事ハ餘想外デ下關門司ヲ繋グ渡船ノ比デハ無イ。

數分ノ後香港側ノ棧橋ニ着テ陸地ニ進ム。各種各様ノ風俗ヲシテ居ル諸國人ノ展覽會見

タ様＝白黒黄色ノ諸人種ヲ以テ雑沓シテ居ル様ハ、我國ノ何レノ港ニモ見受ケラレヌ風景デアル。

海岸通りハコンノート道路デ、左右ニハ大厦高樓ガ櫛比シテ中空ニ聳エテ居ル。此道ヲ直角ニアイスハウス道路ヲ進ム、路モ狭ク暗ク感ズル位デアル、此附近ノ右側＝日本郵船ト大阪商船ノ各支店、少シ行ツテ左側＝ハ帝國總領事館、正金銀行、臺灣銀行等ノ支店ガアル。

ズット先ノ坂ノ右側＝松原ホテルガアル、二階ノ室ニ通ツテ暫時休憩ノ後、若キ田中君ノ案内デ香港島ドライブラ始メル、ジックザックノ道路ヲ左右ニ走ル。アスファルトノ道路ハ隈ナク敷キツメラレテ市街ヲ上下ニ眺メツ、快走ヲ續ケル、島ノ裏側ニ出ル、舊香港ト稱スル支那人部落ニ出タ、潮ハ干潮ヲ見セテ一面ニ

小型ノ漁船ガ灣内一杯ニ不規則ニ充メラレテ船腹ヲ出シテコロコロシテ居ル、不潔デ而モ不快ナ部落ダ、聞ケバソノ昔海賊ガ定住シテ居タ家ダサウナ、アー氣持ガ悪い。

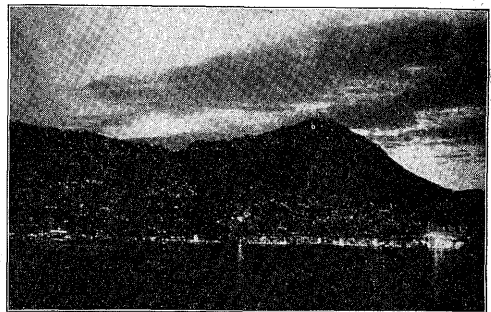
更ニ走リ Deep Water Bay ト云フ海岸ニ達スル、風光明媚デ山水ノ風景イト麗カデ左ニゴルフリンクス、右ニ海ニ沿ツテ砂濱ガアリ、草草ノ奇形ノ小屋ガ並列シ、上ニ大キナ洋館ノホテルガアリ、海水浴場トシテハ前ノ舊香港ト似モツカヌ清潔サデアル。海ハ深く、水ハ清ク、風波無ク實ニ立派ナ閑靜郷デアル。

更ニ車ヲ走ラセ坂ヲ登リ草生地ヲ廻ル、遂ニ鞍部ニ出ル、ホテル、クラブ、ケーブル、兵舎、停車場等ノ建築物ガ櫛比シテ特殊ノ風景ヲナシ、印度人ノ巡査ガ數名異様ナ風彩ヲシテ突キ立ツテ居リ、轎カキノ支那人苦力ガ彙集シテ登山ノ客ヲ待ツテ居ル、車ヲ停メテ徒歩ニ移ル、表香港ノ市街モ、港内ニ輻輳スル船舶モ、九龍半島ノ新市街モ山々モ、一眸ノ下ニ取ル様ニ展開スル、港ニハ軍艦アリ、驅逐艦アリ、商船アリ、渡船アリ、傳馬船アリ、ランチアリデ、私等ノ白山丸モ堂々ト九龍棧橋ニ日章旗ヲ掲ゲテ横付ニナリ輻ヲ利セテ居ル。

右ノ峠道ノアスファルト道ヲ通り香港市街ノ上ヲ西ニ向ツテ行ク。叢林ガ續ク、臺灣ニ産スル植物ガ多く見ラレル、少シツバ拾ツテ見ルトうらじろあかめがしは、たいわんつばき、たこのき、ながばんきんはぜ、うらじろえどのき、ぎらんいぬびは、ときはいぬびは、ぎよぼく、ふかのき、たぶ、がじゅまる、あこう、けいぬびは、いたちがや、ひりゆうしだ、



第 2 圖 香港ノ風景



第 3 圖 香港ノ夜景

とばけかんこのき、のぼたん、しまのげし、こしだ、おにやぶむらさき、とばんもち、ながえさかき、ほらしのぶ、とがりばひさかき、えのき、やんばるあわぶき、たいみんたちばな、はりみこばんもち、くすのき、たではぎ、おほぼんでんくわ、ささきび、ほしだ、つるまき、あきののげし、てんにんくわ、くはずいも、こうしゆんつげ、あわだん、やにちしやのき、ほんこんがし、たまぎきがふくわん、やなぎやぶまを、たいわんぬるで、かんこもとき、たいりんげつたう、つるあかしや、くまやなぎ等ノ植物が眼ニ入ル。

ピークニハたいわんまつ (*Pinus Massoniana* LAMB.) ヲ多ク造林サレテ居ル。一番眼ニ着イタノハ石ニ着生シテ這ヒ廻ル *Ficus impressa* CHAMP. ト云フいたびかづら類似ノ蔓性植物デ、白花ヲ着ケタ小喬木デハ *Homalium fagifolium* BENTH. ト *Reevesia thyrsoidea* LINDL. ノ2種デアツテ此3屬ハ臺灣ト共通屬デアル。眼ノ當リ見ルニ及ンデ欣快ノ情ヲ禁ジ得ナカツタ。

西ニ出ル、兵營ノ處ノ鞍部ヲ越シテ更ニ南ニ出テ舊香港ノ上ト覺シキ處ノ草地ヲ通り、保安林ノ中ヲ通レバ水ノ落下スル濕漚ガアル、*Begonia lasiniata* ROXB. ガ數輪ノ懷シキ桃色ノ花ヲ着ケテ居ルヲ見テ、一時間近ク植物景ヲ漫步シテ元ノ車ヲ置テアル鞍部ニ出タ。

陽ハ暑クモ三々伍々ト漫步スル男女ノ幾組ト、眼下ニ紺碧ノ貯水池ヲ見ツ、再び車ニ乗ツテ下ル、右下ニ總督官邸、レースコース等ヲ指顧ノ間ニ眺メテ植物園横ヲ通ル、觀音竹ノ生垣トぶっさうげ、くるとん等ガ非常ニ多ク植エラレテ居ルヲ見ツ、松原ホテルニ入ル。

私ノ感ジタ香港島ハ極端ニ狭イ處ニ極端ニ人ガ多イノデ、如何ニシテモ人ノ住ムニハ端的ニ土地ノ利用デアツテ、其處ニ文明ノ利器ヲ總動員シテ色々設備ヲシナクテハナラナイノデ、崖ノ危ナカシイオーバハングシテ居ル處ニハ岩ヲ破ツテ鐵ノポートヲ通シテ橋ヲ架ケ、電氣トガソリソ自由ニ使フ様ニ設備シテアルノダ、ソコデ崖モ岩モ山ノ高イノモ問題デハナクナルノダ。

此機會ニ私ノ知り得タ香港島ノ外廓ヲ一寸記シテ見ヨウ。香港島ハ北緯22度9~17分、東經114度5~8分ノ間ニ位スル、支那廣東省九龍半島ノ對岸ニ位置シ、長サ11哩、幅2~5哩、周圍27哩、面積 $28\frac{3}{4}$ 平方哩ノ島デ、山嶽重疊シ、海拔2000呎ヲ算スルモノガ大分アツテ稍々東西ニ長軸ヲ見セテ居ル。

此島ハ元來ガ南支那海ニ存在スル海賊ノ巢窟ト云ハレタ漁村ガ多カツタガ、英國ハ夙ニ眼ヲツケ、何時カノ機會ヲ狙ツテ居ツタガ1840年有名ナ阿片戰爭ヲ支那ニ向ツテ吹ツカケ、同41年ノ8月ニハ遂ニ南京條約ヲ締結シ自領トナシタガ、英國ノ支那ニ於ケル野心ノ爪牙ヲ入レタ第一歩デアツタ、更ニ向側ノ九龍半島ト石切島ノ4平方哩ヲ1860年ニ無理槍ニ割譲サセ、續テ1898年6月ニハ大陸ノ地續キ370平方哩ノMirs Bay, Deep Bay, New Territory ト稱スル土地及島々ヲ99年間無理無體ニ借上ゲテ遂ニ支那海ニ於ケル根城トシテ仕舞ツタ、其陰險狡猾ノヤリ方ニハ驚カザルヲ得ナイノデアル。オ蔭デ今回ノ日支事變ニハ此香港ヲ遺憾ナク惡用シテ我邦ニ邪魔ノ限リヲ盡シテ居ルノデアル。

香港ハ北ト南ニ山ヲ負ヒ、英國一流ノ海峽ヲ利用シタ港灣デ、幅廣ク、水深ク、巨舶ノ運航、碇泊ニハ聊カノ不便モ無イ近代都市デアルト同時ニ自由港デアル、ダカラ種々ノ貨物、

産物ノ輸入、輸出ハ無税ノ儘通過セラレルノデアル、一年ノ數量ハ實ニ夥シキモノデアルデアラウ。香港ハ亦有名ナ美港デアツテ、世界3大美港ノ一ト稱セラル、程、香港島ニ市街ヲ形成シテ重箱ヲ積重ネタ様ニ大層高樓ヲ山麓カラ山頂ニ向ツテ建設シ、其ノ港灣ノ風光ト相映ジテ立派ナ街衢ヲナシテ居ル、若シ夫レ夜景ノイルミネーションノ海水ニ映ズル有様ト來タラ天下一品デ正ニ龍宮城ノ昔物語ヲ思ハシムルモノガアル。

山麓地帯即チ海岸ニ近キ部分ハ全部商業地帯デ山岳地帯ハ住宅地ニナツテ居ル。

氣候ハ冬期寒冷デ、北東季節風卓越シテ空氣ハ乾燥シ、夏期ハ暑クテ濕氣ガ多ク、氣溫ハ華氏 95 度ヲ超ユルコト稀デ、40 度ヲ下ルコトモ稀デデアル、雨ハ五月及九月ニ多ク年平均 2200 mm 位デアル。

人口ハ香港島及九龍ヲ合セテ 1931 年ノ調査デハ 849,000 人餘デ内支那人ガ 821,000 人、非支那人ガ 28,000 人トナツテ殆ンド支那人ノ都會ト云フデモ差支ハ無イガ、町ヲ歩イテ居ルトマニヲト同ジク世界人種ノ博覽會見タ様ニ感じノスル處デアル、支那人アリ、印度人アリ、英人アリ、日本人アリ、スペイン人アリ、佛蘭西人、馬來人アリト云ツタ調子ニ相當込ミ入ツテ居ル、尙ホ右ノ外ニ港内船舶、ジャンク、小船ノ中ニ 75,000 人ト云フ家無シノ水上生活者ガ數ヘラレル。故ニ船舶ノ處ニ小サイ船ニ乗ツテ來テ海中ニ銀貨ヲ投ゲ込ムノヲセガム貧弱ナ生活者ノアルコトモ旅ノ御愛嬌ノ一ツデアル。

島ガ小サイノト花崗岩ノ母岩ガ切り立ツテ居ル爲メニ農林業ト云フモノガ殆ンド見ラレナイ、唯全島ヲ緑化ノ爲ニ松ヲ造林シテ居ルノト厚生林ヲ伐採セヌ様ニシテアル位ト、生牛乳ヲ得ル爲ニ相當ノ牛ヲ放牧シテ居ルガ牧草ノ不足ノタメニアグラスヲ栽培シテ居ツタリ、花卉ヲ市街ニ供給スル爲メニ花卉園藝ガ相當ニ發達シテ居ルガ、此ノ部分ハ九龍半島ノユツクリシタ土地ニ栽培サレテ居ル様ダ。

此島デハあぢさゐガ特ニ名産トナツテ 7 月ノ候ニハ島ノ各處デ見事ナモノガ見ラレサウダガ、丁度時季外レデ見ル事ガ出來無カツタノハ洵ニ残念デアツタ。

此島ノ名産ハ南支那ノ名産デ翡翠、エメラルド、オパール等ノ寶石類ト其加工品、裝飾品、端溪硯、骨董品類、紫檀ノ細工物、家具類、籐細工類、織物類デ多クノ商賈ガアル。

街々無軌道ノ電車ガ通ツテ居ルガ、其電車ハ二階造ノ私等ノ未ダ曾ツテ見た事ノ無イモノナノデ乗ツテ見タクナリ、銅鑼灣ト云フ處迄片道 10 錢ヲ拂ツテ階上ニ乗ツテ見タ、何ダカ天井ヲ行ク様ナ氣持ガシタガ、左右ハ町端レニ近ヅクニ從ツテ純支那人街ナノデ一種獨特ノイヤナ感ニ打タレタ。通リニ面シテ二階屋ガアリ、階下ハ商賈デ、雜貨屋、旅館、果物屋、理髮屋、煙草屋、一膳飯屋、料理屋等ト相當錯雜サヲ見セテ居ルガ、階上ト來タラ又特別デ、先ヅ大キナ支那式ノ立看板ヲ張り、ヴェランダニハ鉢植ノ小植物ノ市、ソレニ洗濯物ハ長イ竿ヲ道ニ向ツテ數百、數千本ト突き出シ、コレニ無數ノ衣類ヲ干シテ居ル、ソノ複雑サハトテモ一寸日本デ見ル事ガ出來無イ一種ノ偉觀デアツテ正ニ支那固有ノ風景デアラウ、晴天氣ニ風ニ連レラレテ臭氣ノ一部分ハ電車ノ中ヲモ襲フノデアル、初メテ見ル支那人ノ居住風景ハ臺灣ノソレトモ大分異ツテ居ルノデアル。

終點カラ引キ返シテ再ビ元ノ Queens road ノビジネスセンターニ立ツタ、行キカフ人々

ハ又獨特ノ多忙サデ、客ノ往來スル中ニ又轎^{かこ}ナルモノヲモ見ラレタ、香港ハ海岸通りノ二三條ノ外ハ總テ山地ダカラコンナ舊式ノ交通機關ヲ用ヒテ居ル事が判ツタ。

交通機關ト云ヘバ此香港ニハ陸ニハ人力車、自動車、電車、轎トアリ、水路ニハモーター或ハエンヂンノ渡船トサンバントガアル。

此地カラ南支ノ政治、經濟、學術ノ中心地廣東市ニハ海路84哩、珠江ヲ遡江スル汽船ガ有ツテ毎夜10時ニ此地ヲ發テ、翌朝ノ6時ニ廣東ニ到着シ、廣東カラ毎午後4時半出帆シ、ソノ日ノ午後10時半ニ香港ニ到着スルサウデカウシテ交互ニ發着スルノデアル。汽車デ行ケバ九龍カラ3時間ノ行程デ香港ヲ朝ノ8時半、廣東ヲ毎午後4時20分ニ兩所カラ發スルノダサウデス。私ハ歸路ニツクリ同地ヲ訪問スル爲メ遂ニ行カナカツタ。船ハ翌朝早ク出帆スルト云フノデ、午後6時田中君ニ船ニ送ラレテ船中ニ泊スル事トナツタ。

何時ノ間ニカ這入ツタ倭船鹿島丸ハ光榮アル凱旋ノ我オリニピック選手ヲ乗セテ隣ノピアニ横着ケシテ盛ンナ歡迎ヲ受ケテ居ル。何ト云ツテモ此處デハ威勢ノ良イ日ノ丸ノ國旗ガ難有ク涙ガ零レタ、サウシテ元氣ノ良イ日本青年ノ姿ガ。

陽ノ暮レカハ頃カラ岸岸ノ船ノ上カラ眺メル香港全市ガ太イルミネーションノ火ノ海ト化シタ、東西數里上下2,000呎ノ面積ハ悉ク海岸カラ山ノ上迄、電燈ノ點滅デ天下ノ偉觀デアル、大小無數ノ様々ナ色ニ染メラレテ一種ノ風景ヲ織リナシテ居ル、此電燈ノ殆ンド全部ハ海ニ映ジテ長光、短影、波紋ヲ畫キ、美觀ノ限リヲ盡シテ美港香港ノ名ニ背カナイ。

私ハ曾テ夏ノ夕べ、臺北ノ北ニ聳ユル大屯山ノ上カラ夜ノ臺北市ヲ俯瞰シタ事ガ有ル、晝ノ模糊タル風景ヲ見タ私ハ、夕べノ臺北市ガ一切ノ穢物ヲ拂ツテ丸デ五色ノ金銀珠玉ヲ盆ノ上ニ撒キ散ラシタ様ナ見事ナ景色ヲ出現シ、驚クベキ燦爛タル世界ヲ現ハスソノ光景ヲ見タ私ハ、唯恍惚トシテ數分間嘆嗟ノ聲サヘ放チ得ナカツタ事モアツタ、ソノ對照ノ差ノ甚シキ全クノ別物ノ觀ガアル、事程左様ニ市街地ノ夜ノ電景ハ全ク立派ナモノダ、ソノ景色ノ更ニ立體的ニ見テ、規模ハ更ニ大キク、而モ海水ニ映ジテ居ルカラ素のト云ハザルヲ得ナイノデアル。私ハ甲板ニ立ツテ夜ノ更ケ行クヲモ知ラデ、涼ヲ納レツ、椅子ニ倚ツテ飽カズ眺メルノデアツタ。斯クテ止ムナク11時過室ニ入ツテ寢ニ就イタ。

二 香港發シンガポールへ

5月26日 晴

白山丸ハ夜ノ扉ヲ排シテ甲板カラ明ケ始メタ、船夫ノ清掃スル椰子實ノタワシトポンプノ水音勇マシク第一甲板カラ第二甲板ヘト洗ヒ終ツタ。

港ハ明ケタガ港内ハ既ニ多忙ノウチニ大小ノ船ノ來往ガ中々頻繁デアル、直グ横ニ繋ガレタ綺麗ナ蘭船ハ何時ノ間ニカ姿ヲ消シテ居ル。隣ノ鹿島丸モ再び起ル盛ンナ歡呼ニ對ヘツ、大小ノ旭日旗ガ檣頭高ク揚ガリ、船ノ中カラモ外カラモ手ニ手ニ日ノ丸ノ國旗ヲ打チ振ツテ盛ンナ應酬ヲ見セツツ、後檣ニハ五輪ノオリニピック旗サヘ懸ヘシテ景氣良ク觀ヲ切ツタ。

斯クテ私共モ定刻7時ニハ靜カニピアニ離レテ南峽ヲ南ニ指ス、左右ノ建築、走ル風

景ハ更ニ一段ト風趣ヲ添ヘル、左ニ聳ユル九龍停車場ノ時計臺、右ノ岸邊ニハ大小數個ノ船渠、石切場等ヲ眺メツ、海峡ヲ出ル、漸次コースハ南ヲ指シテ大陸ヲ右ニシナガラ進ム。

支那型漁船ハ晝ノ様ニ浮ブ、無名ノ小島ハ陸ニ匿レ、船ハ島影ニ隠レル、附近ヲ繋グラントチノ數々モ出テハ隠レ、隠レテハ出ル、此光景ハ近クニ大港市ヲ有ツツノ風景タルヲ失ハナイ。

○ U. Faurie ノ植物採集旅行ノ記録

FAURIE ガ日本全國ヲ歩キ廻ツテ採集シタ植物標本ガ、現在デハ世界各地ニバラマカレテ色々ト問題ニサレテキルガ、採集地名ガ大抵ハ非常ニ簡單ニ記サレテキルカ又ハ屢々誤ツテ記サレテキルノデ判斷ニ苦シムコトガ多イ。彼ノ採集旅行ノ日記デモ残ツテキレバ大體ハ想像デキルト思フガ、未ダニ不明ナ箇所ヤ疑問ノアル地名ガ残ツテキル始末デアル。

FAURIE ガ採集シタ地衣類ノ標本ハ大部分ガ巴里自然科學博物館ニ送ラレ、A. M. Hue ノ大著“Lichenes Extra-Europæi”ノ主要ナ資料ニナツタガ、コノ書ニハ丁寧ニ採集年月日・採集地・採集者氏名等ガ記録サレテキルカラ、ソノ中カラ FAURIE ガ日本デ採集シタモノヲ丹念ニ拾ヒ集メレバ、不完全ナガラ彼ノ採集旅行ノ記録ガ出來ルワケデアル。

上記ノ“Lichenes Extra-Europæi”ト同ジク Hue ノ“Lichenes morphologie et anatomice disposuit”ヤ、其他ノ文献ヲ參考トシテ次ノ様ナ表ヲ作ツテ見タ。マダマダ不完全ナモノデアルガ、コレヲ中心ニシテ讀者諸賢ノ御援助ヲ得テ訂正増補ヲ續ケタイ。

1885 (明治 18 年)

5月=秋田(22日)、札幌(23日)、小樽。
6月=陸前萩ノ濱(27日)。
7月=青森(10日)、弘前(16日)、福島縣
微溫湯(18日)。
8月=野邊地(4日)、三本木。
9月=七戸(7日)、青森、小樽(29日)。
10月=三本木。
11月=青森、三本木。

1886 (明治 19 年)

5月=黒石。
6月=野邊地。
7月=七戸、八甲田山、岩木山。
8月=北海道幌内。
9月=函館。
11月=青森。

1887 (明治 20 年)

4月=黒石(25日)。

6月=東京。

7月=北海道紋別(26日)。

8月=八甲田山。

10月=函館。

11月=北海道紋別。

1888 (明治 21 年)

5月=秋田(22日)。

6月=清水峠(21日)、佐渡(30日)。

7月=山形(1, 8日)、鳥海山。

8月=北海道 Aaru(3, 18日)。

9月=小樽。

10月=弘前。

1889 (明治 22 年)

5月=根室、硫黄山(20-23日)。

6月=鹽原(28日)。

7月=鹽原(3日)、山形(10, 12, 16日)。